

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100056		
法人名	たけのこ株式会社		
事業所名	グループホーム佐尉郷の驛		
所在地	大分市大在中央2丁目8番11号		
自己評価作成日	令和3年3月23日	評価結果市町村受理日	令和3年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=4490100056-00&PrefCd=44&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4490100056-00&PrefCd=44&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館1F		
訪問調査日	令和3年4月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が住み慣れた地域で、安心、安全に自分らしい生活が送れるように支援して、認知症のケアについて学び、努力向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「佐尉郷の驛」の利用者はここ「大在」出身の方が多く利用されています。事業所の名前の由来は昔この地域が「佐尉郷」と呼ばれていたことから来ており「住み慣れた地域で安全・安心に自分らしい生活が送れるように」を目指した支援に取り組まれています。コロナ禍で外部との関わりはこの1年自粛してきましたが、利用者や職員で花壇を作り花を育てることにより生きがいを持った生活を送って頂く事と機能訓練も兼ねコロナ禍の中でも生活の質を落とさない取り組みを行っています。今年から管理者が変わりましたが「利用者本位、その方らしい暮らしの支援」に取り組まれています。生活の場の役割を担っていただくことにより尊厳を護り活気のある日常生活を営める支援への取り組みに力を注いでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いが増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務マニュアルに記載している。職場の入り口付近に掲示している。職員が意識して実践できるように努めている。	理念は玄関を入るとすぐの目に見える位置に掲示しています。職員採用時には必ず理念を伝え理解できるように丁寧に説明しています。	理念については職員が理念の意義や目的を理解し共有が出来、実践出来る様に取り組んでいきたいと熱く語っていました。今後の取り組みに期待が持てます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為、訪問はお断りしており、代替案を模索している。	例年であればボランティアの受け入れや地域の行事に積極的に参加されていましたが、コロナ禍で地域とのつながりが制限されている中、地域の広報誌で事業所の案内、認知症の啓発についてのコーナーを設けて地域とのつながりが途切れないように取り組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	マルコポーロという地域誌に、施設の情報や介護支援方法などを毎月掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の有識者の方々に出席して頂き、助言やご意見、ご指摘を頂いている。スタッフ会議で報告し、協議を行っている。	運営推進会議は本来であれば事業所で開催していましたが、市からの要請もあり書面を各委員の方々に送付して助言・意見・指摘等頂いています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いているほか、電話などで助言を頂いている。	困難事例やサービス提供についての取り組みを積極的に伝えたり、内容について疑問点があれば尋ねる等、常に連絡を取れる協力体制を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では身体拘束をしない、を前提として職員などに伝えている。年2回の研修会その他、スタッフ会議でも「身体拘束」にはならないかと確認している。	「身体拘束はしない」を前提にしたケアの取り組みを職員で共有し、疑問に思うことは直ぐに職員で話し合い職員一人ひとりが理解し、身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で定期的に研修会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度(保佐人)を利用されている方が入所した折に担当スタッフ等と勉強会ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書等について納得されるまで説明をしている。出来るだけ簡素な文章で分かりやすくしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族からの意見は、良いことも悪いことも、その日のうちに職員に通達している。対応が必要な場合はスタッフ会議で検討している。	家族からの意見や要望に対しては、早急に解決できるように取り組まれています。家族や利用者の要望を聴き取り、内容によってはグループホームの職員だけではなく、施設職員全員で共有し日常の支援に反映できるよう努力しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案は全てほとんど聞いている。内容によっては反映できなかったり、反映すべきでない判断することもある。	職員の意見や要望を聴き取り、運営や業務改善に生かせるように取り組まれています。職員の方の気づきを大切に解決に向けて努力を続けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力はしているが、できていない部分が多い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	来期の目標です。公共機関の研修会に職員が参加しやすい環境を整備しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大在地区の高齢者福祉施設の職員や、退職された病院の看護師等にパートで指導に来ていただくなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入り口のプレハブで、初期の面談をするようにしている。プライバシーを保護し、安心して話せるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の御家族には、こちらから「心配事はないですか」と声をかける他、家族への手紙を毎月送付して状況報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も含めて検討しており、同じ敷地内に有料老人ホームやディサービスなどがあることも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援で、料理の盛り付けなどできるだけ参加して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人様の好みを聞くなど、電話連絡をとることもある。病気で受診する際にも必ず連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	防疫の為、外出できないが、会話に織り込むなどして大切な人や場所を思い出せるようにという試みはしている。	コロナ禍での外出は自粛していますが、馴染みの関係が継続できるように、手紙のやり取りの支援や電話での会話の橋渡しを行っています。今後はネット環境を整え、大切な場所を思い出してもらえる支援に取り組みたいとの構想も描いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席を決める際にはグループワークを考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	折に触れて、相談や支援の継続を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族より希望、要望は聞き取り、利用者さんの思いやストレングスをケアプランに反映している。	利用者の方々との会話を大切に、その思いや意向の把握に努めています。昔の話や歌を歌いながら、会話の糸口を見つけたり塗り絵を利用し持っているちからを把握し、プランに反映できるように取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症のある中で、本人への確認は困難な事もありますが、出来るだけ馴染みの暮らし方が出来る様に考慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有を行っている。いつもと違う時は連絡、報告し、日誌に記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の課題、家族の思い等を関係各位で情報共有して、聞き取り等行い、介護計画に反映している。	利用者・家族の意見や要望を聞き取り検討しながら、利用者本位の介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に様子や発した言葉、表情等気付いた点を記録して職員間で情報共有し、実践にいかせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のレク、外出支援、買物支援、訪問美容等出来るだけ柔軟なサービスが受けられる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に出かけたり慰問コンサートを行ったり、安全に楽しむことができる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の事は、入所の際に確認し、本人の希望している病院の利用が出来る事は伝えていく。また、御家族が付き添う等の支援も行っている。	以前からのかかりつけ医との連携を希望する利用者には、入所時に家族と話し合いできるだけ要望に添えるように支援しています。家族による通院介助ができない場合は、職員2名で事業所の車か介護タクシー利用で支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で入所者の発熱時、異常等があれば、看護師に伝えて、相談して、主治医と連携し適切な指示を頂き、受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は必ず職員が付き添い、医療関係者と情報提供を行い、スムーズに退院が出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族をはじめ医療機関と相談して、本人様にとってより良い方法を検討し、支援している。	重度化した場合の医療的な対応指針は、入所時に利用者・家族と話し合い定めていますが、終末期を迎えた時に入所時とは異なる医療的ケアを希望する家族もおられます。医師・家族とも十分に話し合っ、事業所が最大限に出来る事を説明し相互理解を得た上で支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを掲示している。年に数回の訓練、勉強会を行っている。全職員に消火器の設置場所の確認、使用方法の実践を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法に基づいた訓練と避難訓練を定期的に行っている。運営推進会議で、有事の際は地域の協力をお願いしています。	年に数回、不定期に行っている災害時における避難訓練には、利用者は参加せずその日の出勤者のみの訓練なので、全職員参加での訓練の必要性は感じていますが実施できていません。避難経路の確認や備蓄品の確保等は充分に出来ています。	車椅子利用者や自力歩行可能者を少数の職員でどこまで対応可能か、夜間帯や火災・水害・地震等様々な想定をした上での訓練を、今までは参加できていなかった職員にも実施する事が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーが守られる様に更衣、排泄介助、入浴の際は、外部から見えない様に介助し、出来るだけ本人のプライバシーが守られる様に配慮しています。	職員の声掛けや誘導に対して、拒否の多い利用者にも病気が言わせていると決めつけず、心に向き合って本人にとって良いと思えるような言葉かけを心がけています。人格を尊重し尊厳を保って、生活して頂けるように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間帯や御家族の面会時等のゆったりとした時に声掛けを行い、本人の思いや希望等を聞き取りしています。また、サービスに繋げています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設生活の流れの中で、一人一人の希望に沿って過ごす事は難しいが、本人の思いに寄り添った支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の前準備時に本人に確認を行い、職員と一緒に洋服のコーディネートを考えたり、本人の好みの服等を選んでいく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	和やかな雰囲気づくりを心がけて、軽音楽をかけたたり、お互いに座る席が安心して頂ける様に配慮している。片付けも手伝いして頂いている	食事は、ほぼ毎回完食される利用者が多く、食事介助の必要な2名の利用者も、みんなと一緒にゆっくりと、昔馴染みの音楽を聴きながら同じテーブルで楽しい時間を過ごしています。食後の食器の片づけ等、下膳の手伝いもして頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、見た目、量等を考慮した献立を考えて作っています。水分量も1日800ml程とれる様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けや、歯磨きの介助、を行い、定期的に訪問歯科を利用している方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が、必要なお利用者には声掛けや誘導を行い、自力で排泄が出来る様に支援している。	トイレには一人で出来る利用者が多く、車椅子利用者もトイレ入室後は自力での排泄が可能です。職員は室外での見守りで支援しています。トイレトイレットペーパーの過剰使用について、どの様な対応をするべきか当面の課題となっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめに摂取し、体を動かし、運動等で排泄がスムーズになる等働きかけ、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の体調、気分、様子等を観ながら声掛けして、安全に入浴を楽しめるように支援している。	週三回、午前中に順番を決めて入浴していますが、入浴拒否の多い利用者には頭や足だけを洗うことを提案し、洗髪後気持ちよくなった時に「ついでに体も洗いませんか」との呼び掛けで応じる事もあり、清潔保持とリラックスできる入浴支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の体調や様子を見ながら、昼寝を促したり、各居室で安心して、静かに休息出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は職員が声掛けし、ちゃんと飲み込むまで確認を行い、効能については、聞かれたら解かりやすく説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の出来る範囲で、お手伝いをして頂き得意、不得意等も考慮して、楽しめるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事には可能な限り参加している。しかし年々体力的な衰えや加齢により、遠方への外出が困難となっている。御家族との外出は促している。	車で家族と一緒に食事に行ったり、家の行事に参加する為外出する利用者も多く、日常的な施設内の庭での花壇つくりや花見等、戸外でのレクリエーションを楽しんでいます。遠方への外出は、介護タクシー利用で安全に楽しんでいただけるよう支援に努めています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当苑では、紛失防止の観点からご利用者の所持金は「預り金」として事務局で一括管理している。本人が必要な時は出金している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの電話は取り次いでいる。一部の利用者様は携帯電話を所持しており、時々居室にて、電話をしている。手紙も自由に遣り取り出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングは明るく、ゆったりとした作りになっています。壁に利用者様が作成した絵や飾り物が飾ってあります。出来るだけ季節の花を飾っています。	共用リビング内の壁面には、習字や塗り絵など利用者の作品を飾っており、行事の絵も四季折々の季節感を感じるものとなっています。自分の得意な絵や字で自由に表現している作品に囲まれて、一日のうち多くの時間を楽しく過ごして頂けるよう、共用空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に置いてある物は、本人が馴染んで使いなれた物を置いています。心地よく、快適に過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が選んで、使い慣れたものを居室に置いています。	利用者の馴染みの物品やこたつ・テレビ等持参する方も多く、快適に過ごして頂けるよう、配置には安全面を重視しています。日中、自室で好きなテレビを見たり昼寝する利用者にも、職員は見守りの支援を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者には、常に声掛け、見守りを行っている。自力で行動できるご利用者も必要に応じて声掛け、見守り、介助を行っている。		